

## 赤とんぼと昭和記念公園

一般的にアカネ属のトンボの仲間を「赤とんぼ」と呼びます。農法の近代化により個体数が減少しているといわれるなか、昭和記念公園では8種が確認されています。

### アキアカネによる昭和記念公園の利用



春から初夏まで  
幼虫として昭和記念公園

の水辺ですごします。

7月頃に羽化して成虫になり、暑くなる頃には、より涼しい山に移動します。

秋の稲刈りが終わる頃、昭和記念公園に戻ってきて、湿った土の中に卵を産みます。

### 昭和記念公園の水辺環境



こもれびの里の水田では、有機肥料を使用したり、土の畔をつくるなど、昔ながらの農法で稲作をしています。そのほかにも園内には、トンボの湿地や水鳥の池などいくつもの水辺があり、周辺にはトンボが休んだり隠れたりできる茂みや林があります。昭和記念公園は、トンボにとって大切な生息地の一つになっています。

## トンボさがしスポット

オレンジ色の点線で囲んだ場所は、トンボの仲間がよく観察できる場所です。



こもれびの池

こもれびの里の池や水田

トンボの湿地

花木園の菖蒲田



トンボがいるのは  
こんなところ

- 植物のある池や湿地
- 池や湿地に近い林の中
- 木の上の高いところ
- ※ 種によって好きな場所がちがうよ

### 公園のきまり

- ・園内の生きものは採取したり、持ち帰らないようにしましょう。
- ・立ち入ってもよい場所か確認して観察しましょう。
- ・スズメバチに出合ったら、立ち去るまでじっと待ちましょう。

# 秋のトンボ セルフガイド

赤とんぼが飛ぶ季節になりました。  
あなたが見たのは、どの赤とんぼでしょうか。  
たくさんの種類が飛んでいるので、  
じっくり見てみましょう。



# 秋にみられるトンボの仲間

昭和記念公園で秋によく見られるトンボの仲間について、特徴と生態を解説します。

希少性を伝えるレッドリスト  
レッドリストには国や地域の「絶滅のおそれのある野生生物種」がまとめられています。ここでは東京都のレッドリストの種を「指定地域+希少性のランク」で示しました。

## 【赤とんぼの代表種！】

### アキアカネ

- 都内で減少している。
- 園内では群れで飛ぶ様子が見られ、水鳥の池周辺の上空を舞うのが目立つ。
- ナツアカネとよく似るが、胸の模様で見分けられる。



頭が褐色・腹は赤



アキアカネ  
筋模様の先がとがる



ナツアカネ  
筋模様の先がとがらない

## 【木陰の赤とんぼ】

### リスアカネ

- 東京都 準絶滅危惧 (NT)
- 一生を同じ水辺の周辺ですごす。
- 羽化し始める6月頃は暗い木陰ですごす。晩秋、成熟すると明るい場所に姿を現す。
- 園内では少なくなかなか見られない。



リスアカネ  
胸の筋模様三本が並行

翅の先が褐色



成熟すると  
背面が褐色になる

腹だけ赤

## 【頭の模様がトレードマーク】

### マユタテアカネ

- 東京都 準絶滅危惧 (NT)
- 都内で著しく減少している。
- 園内ではシオカラトンボくらい頻繁に見られる。
- こもれびの丘の木陰で休んでいることもある。



黒い斑点模様



マユタテアカネ  
筋模様はつながっていて  
離れた位置に斑点がない

## 【小川で生きる代表種】

### ミヤマアカネ

- 東京都 本土部 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)  
多摩部 準絶滅危惧 (NT)
- 区部では少ないが、多摩地域の広い範囲で見られる。
- 幼虫は緩やかな流れのある水域を好み、水路などにも生息する。
- 水田の用排水の近代化による影響も個体数減少の要因と考えられている。



翅に褐色の帯模様

## 赤とんぼはなぜ赤い？

オスの赤とんぼは、成熟するにつれて、体の色が赤色に変化します。色が変化する仕組みについて研究が進められる中で、アピール機能以外にも、身を守る機能があることもわかってきました。



マユタテアカネ  
(オス・未成熟)



マユタテアカネ  
(オス・成熟)

※このシートでは、オスを中心に紹介しています。